

- P.1・今年も伊勢湾海洋実習を実施  
・第一グラウンドが天然芝に

- P.2・四日市子ども科学セミナーに参加  
・関東産業主催の環境フェアに参加  
・四日市市消防団の消防操法競技大会に参加

- P.3・東北被災地での交流ボランティア  
・サマースクール2013を開催  
・「日本留学アワード」にノミネート

- P.4・読売ジャイアンツとの親善試合  
・三重県サッカー選手権大会決勝進出  
・ゴルフ部荒木さん「第67回日本学生ゴルフ選手権」出場

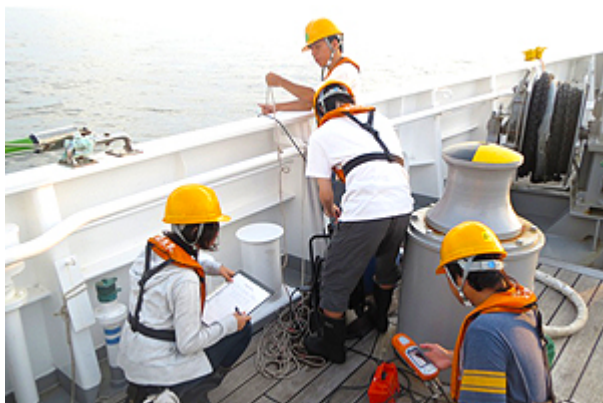
## 今年も伊勢湾海洋実習を実施

7月23日(火)、24日(水)の二日間で、今年で5年目となる伊勢湾海洋調査実習を実施した。これは三重大学生物資源学部の練習船勢水丸を共同利用し、2泊3日で伊勢湾から熊野灘を往復し、海の環境問題を学ぶもの。本格的な海洋調査を学生に体験させたいという本学環境情報学部の希望と、大学間連携・地域貢献活動を広げる三重大学の方針が一致して実現しているもので、今回は環境情報学部の学生20名と教員2名が参加した。

初日の23日(火)は晴れ時々曇りの天気で、太平洋に出ると多少うねりがあったが、調査中にイルカの群れに遭遇し、学生たちは歓喜の声を上げていた。伊勢湾内と湾外の2か所で調査を行い、また、日没後の夜8時にも動物プランクトンを採取するためにマルチネットを曳いた。

24日(水)の午前中は雨となり、一時はレインコートが必要になるほどであったが、午後には次第に回復した。太平洋から伊勢湾内に向かって直線上に設定した6か所の観測点で調査を行い、伊勢湾岸内外の環境の違いを確認。海水中の酸素濃度、塩分や水温の違い、海底の泥の違い、ベントス(底生生物)の差異などを学生たちは感じ取っていた。夜釣りでは、今年もサバが大漁で50匹近くを釣り上げることができた。

勢水丸の船員の方々との協力で、今年の海洋調査実習も大成功に終わった。実習に参加した学生は、海の環境を学ぶとともに、仲間同士で友情を深める良い機会にもなったようだ。



## 第一グラウンドが天然芝に

8月6日(土)、7日(日)の二日間で、本学第一グラウンド(サッカー場・アメリカンフットボール場)の苗の植え付け作業を行い、天然芝のグラウンドに生まれ変わった。

初日はサッカー部とアメリカンフットボール部のみで作業を行い、2日目は暁高校サッカー部とFC四日市の選手と保護者160名、アメリカンフットボール部OBの総勢270名で作業を行った。2日間とも全国的に猛暑日となり大変な作業であったが、多くの方の協力で無事に苗を植えつけることができた。植えたばかりの頃は稲の苗のようなものが点々と並んでいる状態であったが、約2週間できれいな緑の絨毯となった。

天然芝グラウンドでの練習で、選手たちの技術にさらに磨きがかかることを期待したい。



## 四日市子ども科学セミナーに参加

8月9日(金)と12日(月)に四日市文化会館で行われた、四日市市教育委員会主催の第2回四日市子ども科学セミナーに、環境情報学部の8名の学生がスタッフとして参加した。9日(金)は四日市で事業を展開する8社(中部電力・東芝・味の素・東ソー・JSR・第一工業・三重興農社・タートルエデュケーション)と1団体(四日市市環境学習センター)が大きなブースを展示し、そこに小学生を招いて理科実験等を行った。午前と午後それぞれ約200名の小学生が参加し、わかりやすい理科実験に取り組んだ。本学の学生は、受付、誘導、理科実験のアシスタントなどを行った。

12日(月)は、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の宇宙飛行士・古川聡氏の講演があり、保護者を含む約1,500名が来場し、会場は広いホールの2階席までほぼ満席状態となった。本学の学生は、来場者の案内や片付け等を手伝った。古川氏の講演は、自身の国際宇宙ステーションでの体験が中心で、無重力中での一人野球や竹とんぼ実験などの動画が紹介され、子供たちは笑い声や歓声を上げ楽しんでた。最後の質問コーナーでは、宇宙食への質問が集中した。日本食も30種類近くあること、サバの味噌煮が美味で、外国人クルーにも人気だという話題も紹介された。

また、夜には関係者を集めた交流会が四日市シティホテルであり、JAXA副理事や古川氏を囲んで、四日市市の教育関係者、企業関係者、本学教員が懇親を深めた。

## 東産業主催の環境フェアに参加

7月27日(土)、28日(日)に四日市市の東産業で第10回環境フェアが開催され、本学からは環境情報学部の高橋ゼミ、よっかだいエコ活動、一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会の3グループが参加した。環境フェアは毎年7月に開催されており、今年で10年目となるが、毎年規模が拡大しており、今年は32ブースで様々な催しが行われ、約2,000名が来場した。

高橋ゼミは水質分析体験ブースを出展し、ウインクラ法による水中の溶存酸素の測定方法を実演した。水中の酸素をマンガンにより沈殿させ、これに硫酸を加えてヨウ素に転換し酸素量を測るもので、黄色沈殿の生成や、ヨウ素デンプン反応による青色の発生・消失などの色の变化で楽しませた。今回は自然観察系の展示が多く、理化学的な実験は少なかったことから、子供たちは興味を持って見入っていた。



## 四日市市消防団の消防操法競技大会に参加

7月14日(日)四日市市の消防団が毎年開催する操法競技大会が開催された。今年では第50回記念大会であり、「次世代育成」をテーマに高校生・大学生が放水技術を練習して披露するというエキシビジョン競技が企画された。本学からは総合政策部の学生で消防士志望の「野球部チーム」、東北支援の仲間で結成した「チームへなちょこ」が参加した。

結果は、「チームへなちょこ」が第3位に入賞した。エキシビジョンとはいえ、2本のホースを連結してポンプ車に繋ぎ、高圧放水で的を倒すという本格的なもの。万が一の際には、学生たちが地域の消防団を補佐して初期消火に貢献することを期待したい。終了後は、参加した学生全員で湯の山温泉で汗を流し、自然薯料理を楽しんだ。楽しいイベントであると同時に、消防団の方々の真剣に競技に向き合う姿勢から、地域を愛し、住民を守る消防団の重要性を学んだ。



## 東北被災地での交流ボランティア

8月20日(火)～23日(金)、本学の学生や四日市看護医療大学、県内の高校生を含む41名が宮城県東松島市で交流ボランティアを行った。これは、総合政策学部の鬼頭浩文学部長が代表を務める「四日市東日本大震災支援の会」が行っているもので、今回で18回目のボランティア派遣となる。震災から約2年半経った被災地を訪れ、被災者のケアや交流会、復興に向けた意見の交換会などが目的。

20日(火)の夜に本学を出発し、21日(水)には約400世帯が暮らしている矢本運動公園仮設住宅で住人約300名を招いて焼きそば&BBQ交流会を開催した。自治会長の小野さんからは、壊滅的被害を受けた東松島市大曲浜での被災体験について講話いただいた。現地では、仮設住宅での生活を体験するため、集会所で宿泊した。

22日(木)は、朝から炊き出し研修を兼ね、ポリ袋炊飯で作ったご飯とカレーを食し、石巻西高校で被災体験から得た教訓などを伝えるプレゼンを作成した。この高校は学校の近くまで津波が押し寄せ、避難所や災害対応拠点になった経験があり、被災時の高校の様子、将来に予想される大災害に日本人はどう対応すべきかを議論し、それを踏まえ、三重県に戻って「伝える」ためのプレゼンテーション資料を作成した。

23日(金)の朝、本学に帰着した一行は、一般の方にも公開して報告会を行った。被災者の声を実際に聞くことで、学生の立場でどのような貢献ができるか、次の災害に備えて何をすべきなのかヒントを得ることができた。



## サマースクール 2013 を開催

8月9日(金)、大学での専門的な学び体験を提供するイベント「サマースクール」を環境情報学部が開催した。環境コースとメディアコースの2つを用意し、メディアコースでは、四日市商業高校軽音楽部の2年生バンド「awake」の皆さんがガールズバンド SCANDAL の『HARUKAZE』を元気いっぱい演奏、それらを参加者の高校生が照明技術や音響技術を駆使し、プロモーションビデオ(PV)制作を体験した。環境コースでは、身近なバイオエネルギーの可能性として注目されている藻類(そうるい)から石油を取り出す実験を行った。胡麻やオリーブなどの食料品から油を採るミニ実験も同時に行い、生徒は興味深げに参加していた。参加した生徒には、本学から修了書を授与した。



## 「日本留学アワーズ」にノミネート

財団法人日本語教育振興協会が実施する「日本留学アワーズ」大学文科系部門に本学の留学生支援センターがノミネートされた。同協会は主として日本語学校教員を会員とする団体で、現在300人程度の会員を擁している。本学は今回、全国の日本語学校が選ぶ「留学生に勧めたい進学先」としてノミネートされた。ノミネートされたのは全国で8大学(早稲田大学・明治大学・立命館大学・関西学院大学・日本大学・聖学院大学・愛知大学・四日市大学)。

8月6日(火)に国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰式が行われ、立命館大学が受賞した。残念ながら本学の受賞には至らなかったが、全国に多数ある大学の中からノミネートされたことは、日頃のサポート体制を評価されたということでもあり、これからの更なる飛躍にも期待したい。

## 読売ジャイアンツとの親善試合

8月17日(土)に読売ジャイアンツ球場にて行われた「読売ジャイアンツ VS 東海地区大学野球連盟選抜」の親善試合の選抜チームに、本学硬式野球部から3名の選手が選出され、コーチとして木下隆司監督が参加した。選出されたのは捕手の森崎智和さん(総合政策学部4年)、三塁手の三浦健太さん(総合政策学部3年)、外野手の辻良さん(総合政策学部3年)の3名。試合は3-3の引き分けであったが、プロ野球チームと試合ができる貴重な経験を通じ、選手たちにも一層の成長が見られた。



## 三重県サッカー選手権大会決勝進出

第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会兼三重県サッカー選手大会が県営鈴鹿スポーツガーデンで行われた。8月18日(日)の準決勝の相手は、Jリーグ入りをを目指す社会人代表チームの「FCヴィアティン桑名」。元Jリーガー7人を擁する強豪であったが、延長戦の末3-2で勝利し、決勝戦に進出した。

8月25日(日)に行われた決勝戦の相手は、準決勝で高校代表の三重高校に勝利した社会人代表の「マインドハウス四日市」。勝てば3年振り5回目の全国大会出場であったが、善戦むなしく1-2の惜敗となった。当日は雨天にも関わらず多くの声援があった。



## ゴルフ部荒木さん「第67回日本学生ゴルフ選手権」出場

岐阜県やまがたゴルフ倶楽部美山コースで開催された「第43回中部学生ゴルフ選手権」で、荒木彰崇さん(経済学部4年)が2日目を12位で通過し、最終日を+3で回り11位に順位を上げた。これにより、8月27日(火)から加古川ゴルフ倶楽部(兵庫県)で開催される第67回日本学生ゴルフ選手権へ、2年ぶり2回目の出場権を獲得した。

「2年前の同大会では2日目で予選落ちしているので、今年は何としてでも4日間のプレーを目指したい。」と語る荒木さんの初日は2アンダーでトップと5打差の5位。2日目はイーブンパーで2アンダーのまま順位を15位に後退させたが、目標である予選突破を果たした。3、4日目はスコアを崩して最終8オーバーの42位で大会を終えた。ゴルフ部の佐藤監督は「3日目以降は体力とメンタルの面で上位の選手との差が出た。技術面ではすでに全国レベルのテクニックを持っている。ゴルフを始めて4年も経っておらず、その伸び代は大きい。大舞台での経験をもっと積んで強くなってもらいたい。」と話した。また荒木さんは「今は、東京国体(三重県代表)に向けて調整中。学生最後の全国大会になると思うので、自分の持っている力を出し切れる大会にしたい。」と語った。



これまでの Pick Up Topics はホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>



「四日市大学 入試広報室(YokkaichiU)」  
入試情報や最新のニュースを掲載しています。

YOKKAICHI UNIVERSITY Pick Up Topics

学校法人 暁学園 四日市大学  
【発行】入試広報室  
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200  
TEL:059-365-6711 FAX:059-365-6630  
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>



P.4